

報

告

「ドクターバンクに関する調査結果」と 「熟練ドクターバンク事業の開始」について

常任理事
医業経営・福利厚生部長 北野明宣

1. はじめに

去る7月23日付で、60～74歳の当会会員1,609名を対象にドクターバンクに関するアンケート調査を実施した。

かねてから、学会出席時の代診や土日の宿日直応援など地域で診療に当たっておられる方々からの要請に応じて、診療支援を行なうシステムは、特に広域・寒冷・降雪を抱える北海道では、医師が地域に定着しやすい環境を整える意味合いから有効な手段として、北海道地域医療振興財団を中心に、北大・札幌医大・旭川医大の協力のもと取り組まれてきた。

さらにこの考え方を発展させ、開業医で代を譲られた方や勤務医で定年退職された方などが、その経験と技術を生かし、地域医療支援に参加できる仕組みができないかとの考えから、当会（小職名）と北海道保健福祉部保健医療局長連名による調査を、該当年齢層の方々を対象に行ったものである。

ちなみに、この考え方は、日本医師会医師福祉対策委員会（当時の北海道医師会選出委員は鈴木忠男氏）の平成13年度答申で、定年医師の再就職斡旋機構としての「ドクターバンク」とボランティア的な意味合いの活動を中心とした「代診医師斡旋事業」の推進について提言されている。

2. 調査の結果

調査は、1週間の期間をおいて7月30日（金）を締切日として、原則、FAXによりご回答いただくこととした（調査依頼文並びに回答用紙は別掲）。診療支援に協力する意思の有無と意見を伺うものである。

その結果、回答数は468名（回収率29.1%）に及んだ。記名式の調査であることを考えると、か

なり高率である。

集計結果は、表の通りである。

「協力を考えたい」とした方は44名（9.4%）であった。

さらに、「協力は難しい」と回答された方や「無記入」の424名の中でも、意見・助言欄に記入された197名の内容を分類すると、「主旨に賛成」とするものが42名（9.0%）、「将来協力したい」とするものが41名（8.8%、「主旨に賛成」とダブルカウントしたものあり）と前向きなご意見を多数お寄せいただくことができた。「協力を考えたい」「主旨に賛成」「将来協力したい」を合計すると113名（24.1%）になった。

3. 「熟練ドクターバンク」の立ち上げ

以上のように、当初考えていた数を上回る前向きなご意見を多数お寄せいただいたことに力を得て、（財）北海道地域医療振興財団を実施主体として「熟練ドクターバンク」事業を9月13日付けで立ち上げることとした。

早速、行政と当会から関係各方面へその案内とバンクへの登録の案内を文書で送付させていただいた。

このシステムが円滑に機能し、地域医療支援に大きな力になっていくことを期待したい。

そのためにも、豊富な診療経験を有する多くのドクターに積極的にご登録いただくことが望まれる。また、「熟練ドクターバンク」と称しているが、現役の方でも、勤務や就業規則などに抵触しないかぎり、登録して積極的にご参加いただくことを歓迎したい。

登録した医師には、地域の医療機関から要請があった時に、日程や条件（報酬や診療内容など）などの調整を行い、合意を得た上で支援に赴いていただくことになるので、決して強制力の働くも

のではないことは勿論のことである。

なお、登録するための用紙は北海道地域医療振興財団（電話011-221-1075）または当会（会員課、011-231-1434）にあるのでご連絡いただきました

い。また、近日中に北海道地域医療振興財団ホームページからも登録できるようになる予定。

以上、ドクターバンクアンケートの結果報告と熟練ドクターバンク事業立ち上げの報告とする。

別紙1

拝啓

盛夏の候、時下ますます御清祥の段、お喜び申し上げます。

さて、道内の過疎地等で勤務する医師は、深刻な医師不足により、学会等への出席や休暇の取得が困難な状況にあり、また、土日も宿日直勤務をせざるを得ないなど、極めて厳しい勤務環境におかれており、こうした地域で勤務する医師への支援が重要な課題となっております。

このため、北海道医師会と北海道では、開業医で代を譲られた方や勤務医で定年退職された方などに、地方の医療機関からの要請に応じて、学会出席時等の代診や、土日の宿日直応援などのご支援をいただくシステムづくりを検討しております。

支援の仕組みにつきましては、現在、別紙のような内容で検討を進めておりますが、こうした取組みに対する皆様方のご意向などをお伺いさせていただくことが第一であると考え、60歳～74歳までの北海道医師会会員の方々に対象に本調査を実施することといたしました。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、ご協力をお願い申し上げます。
なお、7月30日(金)までにご回答いただければ幸いです。

敬具

北海道医師会会員の皆様

平成16年7月23日

(社)北海道医師会

医業経営・福利厚生部長 北野明宣

北海道保健福祉部

保健医療局長 吉田茂夫

連絡先

北海道医師会会員課

課長 武藤 雅弘

Tel011-231-1434

(ダイヤルイン)

北海道保健福祉部医療政策課

主幹 由川 孝典

Tel011-231-4111(代表)

(内線25-354)

別紙2

(FAXによりお送りください。)

FAX送信先

011-210-4514

北海道医師会会員課 行き

ご氏名

(ご連絡先)

電話番号

・過疎地等の地域で勤務する医師に代わって、地方の医療機関に出向き、学会出席時等の代診や土日の宿日直応援などの診療支援に協力する意志がある。
(いずれかに○印をつけてください)

①協力を考えたい

└─(詳しい事業内容等について)

・説明を受けたい

・説明の必要はない

②協力は難しい

★ご意見・ご助言等をご記入ください

Blank lines for providing comments and advice.

別紙3

ドクターバンク事業(仮称)に関する
北海道医師会会員へのアンケート調査結果

客対数 1,609 (60歳~74歳会員)
回答数 468
回収率 29.1%

アンケート調査項目		回答数	割合
協力を考えたい	説明を受けたい	17	3.6%
	説明の必要はない	16	3.4%
	無記入	11	2.4%
	小計	44	9.4%
協力は難しい		417	89.1%
無記入		7	1.5%
合計		468	100.0%

「協力は難しい」と回答した人、
無記入の人の意見・助言の内容

主旨に賛成	42
将来協力したい	41
その他	114
合計	197

別紙 4

『熟練ドクターバンク』設置のお知らせ

平成16年9月13日

財団法人 北海道地域医療振興財団

1 背景と目的

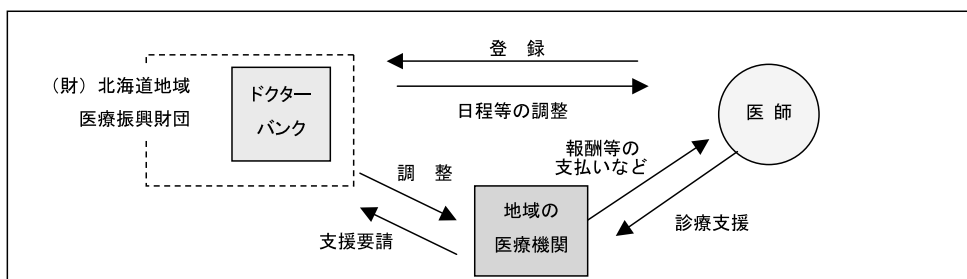
道内の過疎地等で勤務する医師は、深刻な医師不足を背景に、学会等への出席や休暇の取得が困難な状況にあり、土日も宿日直勤務をせざるを得ないなど、極めて厳しい勤務環境に置かれています。

一方、最近の動きとして、長年、開業医や勤務医として過ごされた医師の中に、今後、新たに地域医療に従事したいと考える方々も多く出てこられております。

(財)北海道地域医療振興財団では、こうした状況を踏まえ、北海道及び北海道医師会と連携して検討を進めてまいりました結果、9月13日付けで、開業医で代を譲られた方や、勤務医で定年退職された方などの登録制度として『熟練ドクターバンク』を設置し、地域への定期的な診療応援や学会出席時等の代診、土日の宿日直応援など、熟練した技術、豊富な経験に基づき、地域医療支援を行う新たなシステムをスタートすることといたしました。

2 システムの概要

〔イメージ図〕



- 本システムの運営は、(財)北海道地域医療振興財団が行います。
- 本システムにご協力いただける医師の皆様は、あらかじめ、財団に設置する「熟練ドクターバンク」に登録いただきます。
- 財団では、自治体病院等からの協力要請を受け、登録いただいた医師との間で、日程調整や条件整理（報酬、診療内容等）を行った上で、登録いただいた医師に、実際に、地域の病院等で診療支援を行っていただく仕組みとなっています。

3 お問い合わせ

本システムの詳細や登録にあたっての具体的な手続きなどに関するお問い合わせにつきましては、(財)北海道地域医療振興財団までご連絡ください。

(財)北海道地域医療振興財団 担当 立花、墨谷

電話 011-221-1075

FAX 011-208-2576

財団ホームページ <http://www.iryozaidan.or.jp>

※医師の登録等につきましては、HPからも行なえるよう作業中ですので、ご了承ください。